

第 29 回 北九州市環境審議会 会議要旨

1. 日 時 平成 23 年 10 月 18 日（火） 14:00～17:00

2. 会 場 ホテルクラウンパレス小倉 2階 紅梅の間

3. 出席者（敬称略）

会長 浅野直人

会長代理 三宅まゆみ

委員 泉優佳理、後藤雅秀、自見榮祐、土井智子、西道弘、花崎正子
樋口壯太郎、本田忠弘、諸藤見代子、八記博春、吉崎邦子、
吉塚和治（50音順）

事務局 今永環境局長、松岡環境未来都市担当理事、加茂野環境政策部長、諫山
循環社会推進部長、山下環境監視部長、小林環境未来都市推進室長、松
永環境都市調整担当部長、内藤環境国際戦略室長、石田アジア低炭素化
センター担当部長、佐藤総務課長、石井環境学習課長、渡部環境広報担
当課長、作花循環社会推進課長、藤本業務課長、安部施設課長、香具環
境未来都市推進室次長、塚本環境都市調整担当課長、池上環境産業担当
課長、佐々木環境科学研究所次長

4. 議 題

（1）審議事項

①北九州市環境基本計画の策定について

（2）報告事項

①平成 20 年度市域の温室効果ガス排出量（速報値）について

②環境首都検定の公式テキスト改訂版と検定受検募集について

③北九州市循環型社会形成推進基本計画について

5. 議事要旨

（1）審議事項

北九州市環境基本計画の策定について、事務局からの修正案の説明後、審議が行われた。

（2）報告事項

①平成 20 年度市域の温室効果ガス排出量（速報値）、②環境首都検定の公式テキスト改訂版と検定受検募集、③北九州市循環型社会形成推進基本計画について、事務局からの報告後、質疑応答が行われた。

6. 議事録（要旨）

（1）審議事項

【会長】

前回の審議会では、環境基本計画の策定及び全体のスケジュールについてご承認をいただきました。この基本計画は、世界の環境首都を目指す北九州市民の合意でできた「環境首都グランド・デザイン」に基づき、その行政計画としてつくったものですが、5年が経過して見直しを行うものです。

本日は、事務局から基本的な考え方を説明いただき、これまでの計画の何処を、どのように手直しをしたら良いかについて、資料 2・3・4 に基づき意見を伺いたいと思いま

す。

計画策定にあたっての基本的な考え方について、総務課長より説明

【会長】

ただ今、資料1に基づき、基本的な考え方の要点を説明いただきました。それではご自由にご意見、ご質問をいただきたいと思います。

【委員】

取り組むべき課題の2番目の「地域からの地球温暖化対策の推進」を、後の内容からみると、「地域からの低炭素社会の推進」という文言に置き換えたのか。

【事務局】

この取り組むべき課題については、現行の環境基本計画の4つの柱に分けて整理している。ご指摘のとおり、文言を変えているが、その文言で良いのかについてもご意見いただきたい。

【委員】

今後、重点的に取り組んでいくべき施策の2番目に、「資源リサイクル拠点の形成」として3Rの推進が展開されている。3Rの推進は大いに賛成であるが、リサイクルに比べ、リデュース、リユースが展開されていないのではないか。今後、リデュース、リユースをどのように進めていくのか。また、問題は何処にあるのかお尋ねしたい。

【事務局】

ご指摘の通り、3Rの中でも、特にリデュース、リユースが求められる。例えば、家庭ゴミのうち、排出量の割合が最も多いのは厨芥類である。このリデュース策として、まずは、食材の使いきり、それから料理の食べ切り、最後にごみ、例えば野菜の皮の水切りのような取組を展開していきたいと思う。

また、レジ袋削減に向けて環境パスポート事業に取り組んでおり、今後とも進めていきたい。

【会長】

それでは委員は、納得されない。北九州市の廃棄物の多くを占める産業廃棄物についての考え方が足りない。既に国の資源有効利用促進法に中でもリデュースに力を入れている。産業界の努力が市民の目に見えないことが問題である。産業界が市民に示してこなかったのが原因である。市民と産業界、あるいはレストランのゴミと市民のゴミが繋がっていくと楽になる。市民、産業界をバラバラに扱うというやり方には無理がある。

【事務局】

産業界を巻き込む仕組みは、現在もリサイクル法等を通じて設けられている。例えば容器包装リサイクル法では、メーカーが容器包装資材の使用量を抑制することで、負担金を抑制できるようになっている。このようなリデュースが進んでおり、今後、必要な周知を進めていきたい。

【委員】

取り組むべき課題として、市民環境力の強化があげられているが、とても重要なことだと思う。一人ひとりの市民が生活スタイルを転換し、生活をマネジメントしていくことが大切である。できれば、市民が何をすれば良いのかといった行動のテーマをあげ

ていただきたい。

【委員】

計画策定の方向性の中に、環境未来都市、グリーンアジア国際戦略総合特区構想の内容を反映させるとある。本市も9月に環境未来都市に手を挙げたが、決定がいつ頃になるのか教えていただきたい。

【事務局】

国の計画では、年内に決定するとのことである。

【委員】

本市が環境未来都市に選定された場合、この計画の中に高齢社会とのリンクなどの施策を盛り込むことはできるのか。

【事務局】

この基本計画の中にも反映しなければならないということから、基本計画に関連する計画の中に記載している。決定すれば、色々と盛り込むことがあると考えている。

【委員】

時間的に間に合うのか。

【事務局】

最終的には策定が少し遅れたとしても、盛り込むべきではないかと考えている。

【委員】

私もそう思う。超高齢化社会になれば、本当に市民に優しい環境政策が必要になると思うので、十分に盛り込んでいただきたい。

【委員】

町内会で月1回公園掃除をしているが、今月は「市民いっせいまち美化の日」で多くの人に参加してくれた。すると、公園の草の減り方が大きく違って、裾野を広げることがこんなにも効果があるのかと感じた。

市民に裾野を広げるという意味では、学校や市民センターを中心に高齢者への情報発信は十分に行われていると思うが、そこからこぼれる中間層の方をいかに巻き込むかが大事だと思う。例えば、この夏の節電・省エネは、家庭の節約に繋がり社会的な意義も分かって、これまで環境に興味のなかった人にも受け入れられた。このように次のアクションがどのように環境に繋がるのかという情報が発信されるとより浸透すると思う。

次に、安心安全は痛みと負担を伴って自分達で手に入れるものだと学んだ気がする。そうであれば、かいた汗や痛みに対する効果を、数値などで知りたいと思った。そのような流れを通して、中間層の人達にも情報が発信されると良いと思う。

【委員】

これまでのご意見を現場で感じている。いろいろな場所で講演する時に、対話が必要だと凄く感じる。パンフレットではなく、地域に出向いて直接伝えるという政策も必要だと思う。その際は、行政言葉ではなく生活者言葉に直して初めて理解してもらえる。

次に、地域づくりに関連して、例えば地域コンテストのように、まち全体が環境を楽しむ仕組みがあれば良いと思う。

【委員】

地域コミュニティの活性化において、例えば、レジ袋を削減するマイバック運動が浸

透しているように、地域の人たちの小さな努力の積み重ねが環境力になっていくということを、もっとお知らせしたほうが良い。

【委員】

全体的に横文字、カタカナが多い。略字に意味を付けるなどの工夫が必要ではないか。

【委員】

重点的に取り組んでいくべき施策の2番目、「資源リサイクル拠点の形成」に関して、レアメタルやリチウムイオン電池、太陽光パネルのリサイクルに関する具体的な記述があるが、それ以外のリサイクル技術や回収技術を含めて検討する余地はないのか。

次に、戦略的国際環境協力に関して、技術移転のキーパーソンづくりと革新的な環境協力の案件形成とあるが、どのようなことをイメージしているのか。

【会長】

私も少し気になっていて、ここだけ妙に具体的な内容となっている。また、案件形成の部分は業界用語が突然出ているという感じもする。

この段階で、5年の計画の中に入れた方が良いのか。それとも、もう少し抽象化しておき、次のステップに入れるのが良いのか。もう少し固有名詞を減らすなど検討してもらいたい。案件形成については、専門言葉を使わないで、何を言いたいのか分かるような表現に見直していただきたい。

【委員】

高齢化率が政令都市で最も高いということから、高齢者が環境のまちづくりにどのように参加していくのか、あるいは、若い世代がどのようにサポートしていくのかについて、もう少し重点的に検討していただきたい。

次に、国際協力において、技術や知識を持った高齢者の方を派遣するなど、高齢者への目配りを行ってもらおうと、北九州らしさがでるのではないかと思う。

【委員】

市民環境力に関して、行政が予算を使って啓発すると思うが、お金も循環して欲しい。水道等の分野で途上国に支援しているが、一方では日本は衰退途上国との言われ方をされている現実もある。その辺のお金の使い方にも配慮をお願いしたい。

【委員】

市民環境力を向上させるには、市民一人ひとりに対して環境を示していくことが必要である。特に、子ども達への環境教育の観点が重要である。

【委員】

現在の案では、小学生以上への環境教育が中心であるが、保育園や幼稚園の頃から環境を意識させることが重要である。その年代の子どもをターゲットにすれば、親も一緒に勉強することができる。

また、難しい言葉で情報発信する傾向にあるので、わかりやすいイメージで伝えていくことも大切だと思う。

【会長】

ありがとうございました。

総じて、この考え方についてという資料には、ある意味厳しいご意見が出たと思います。ご意見を十分踏まえて更に検討してください。

次に資料2、3、4を事務局から説明をいただき、ご意見を伺いたいと思います。では

事務局どうぞお願いします。

計画第1部～3部の事務局案について、総務課長より説明

【会長】

第1部と第2部について、検討状況を報告いただいた。大きな見出しの入れ替えが考えられていて、生物多様性保全という言葉が新しく入ってきた。あるいは低炭素社会、循環型社会という言葉が入ってきたというのが大きな点だと思う。生物多様性に関しては、生物多様性の恵みという観点が入ってきたのが特徴ではないかと思われる。

【委員】

政策目標は、的確な選択をされていると思う。震災を踏まえると災害に強いということが重要となる。この4つの政策目標を縦軸とすると、横軸として災害に強いという視点からの取組を加えていただきたい。

この計画を踏まえ現場にお金がお金が回る仕組みができるなど、学校教育の充実・強化を積極的に図る計画になってほしい。

【委員】

市民環境力の強化に国際的な協働・ビジネスの推進があるが、旧計画ではアジアが中心になっているが、新たな計画ではアジアという言葉が抜けている。また、戦略的国際環境協力事業の推進では、「戦略的」という言葉が付けられているが、これは何を意味するのか。

【事務局】

アジア低炭素化センターという名称を付けているように、アジアを中心に活動を行っているので、「アジア」という言葉の必要性については検討させていただく。

また、「戦略的」という言葉だが、これまでは途上国に対して正に協力という形で研修員の受入れ等を行ってきた。これからはビジネス展開に繋げていくこととしているので、「戦略的」と表現したものである。

【委員】

資料の2の5ページの図に、環境基本計画の下に部門別計画が位置づけられているが、この並び方は出来た順番なのか、あるいは順不同なのか。

【事務局】

基本計画の下に並列的にぶら下がった部門別計画という考え方で、順不同としている。

【会長】

並べるのであれば、後の体系に合わせるなり、出来た順番に並べるなり、何らかの法則性があった方が良くのご指摘だ。もう一度よく考えていただきたい。

【委員】

部門別計画の関連ですが、北九州市環境首都総合交通戦略は入らないのか。

【事務局】

建築都市局の担当ということもあって入れていないが、環境に関連する計画なので検討させていただきたいと思う。

【委員】

政策目標について、市民環境力と低炭素社会づくりには「地域からの」が付いている

が、循環型社会づくりには付いていない。家庭ごみの減量化は、正に地域からという気がするのだが、基準は何かあるのか。

【会長】

循環型社会は北九州が全国のトップという強みがあるので、「地域からの」を付けなかったのではないかと思っていた。全体的にどうするのか検討した方が良いかもしれない。

【委員】

「真の豊かさにあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ」という基本理念はとても素晴らしい。できれば3つの柱（11 ページ）の後に、真の豊かさについてももう少し具体的に記述していただきたい。

【委員】

これまでの取組によって、CO₂がどれくらい減ったのか教えていただきたい。

次に、政策目標「生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保」の基本施策「都市と自然が共生するまちづくり」のところで、「多様な自然環境の保全」から「生物多様性保全」に変わっている。多様な自然という広い分野から生物だけになったように感じる。これまでの方が良いのではないか。

最後に、資料3の13ページの中程に、「事業者は環境に配慮した事業活動や社会に貢献する活動に取り組むことなどにより、自らの持続発展に不可欠な…」とあるが、事業者は地域全体、あるいは地球全体の社会的責任があるので「自ら」は不要ではないか。

【事務局】

CO₂の削減量についてだが、例えば、太陽光の補助であれば、補助件数からどの程度の太陽光発電が導入されたのかが分かるので、そこから発電能力と発電効率を基に、平成19年度から22年度の実績として2,853トンのCO₂削減効果があったと試算できる。このように把握できるものもあるが、データを取ることが難しいものもあるというのが実状だ。

【事務局】

生物多様性に関して、施策体系の中で5つの柱を3つにしていたが、この5つの柱は部門計画等にあたる生物多様性戦略の中にきちんと盛り込んでいるので、要約した形とした。

【事務局】

「自ら」は不要ではないかという点は、検討したいと思う。

【委員】

CO₂の削減については、難しいだろうが出来るだけ把握してお知らせください。

生物多様性のところは、多様な自然環境が生物の多様化になったわけだから、戦略の中に入っているという説明はわかりにくいと思う。多様な自然環境の中に生物が含まれると思うので、ご検討をお願いしたい。

【会長】

ここは、生物多様性という言葉の説明をきちんとする必要がある。自然環境、生態系、生物多様性など色々な言葉があるが、現在の国際的な動向では、生物多様性という言葉で括るのが一般的な認識だ。しかも単に自然保全ではなく、産業活動、人の生活そのものにも繋がるかなり広い概念である。これから先、施策を詰めていく段階で、もう一度議論することになると思う。

【委員】

環境国際ビジネスの推進について、現行の計画では地球温暖化対策、循環型社会の構築、市民環境力の強化に関連する施策として位置づけられている。新しい計画では市民環境力の強化に集約されているが、その他の施策にも関わってくるものと思う。

【会長】

これは整理の問題でもあり、一ヶ所にまとめるのか、個々の場所に書く方が良いのか、ご意見を踏まえて事務局で検討していただきたい。

【委員】

快適な生活環境の確保について、昔は、産業は公害と繋がっていたが、今一般市民が公害といえばカラスとハトです。これらの対策についても考えていただきたい。

【会長】

本日は、基本的な考え方と第1部から2部にかけての説明とそれに対する意見を伺った。いただいたご意見を踏まえて、更に事務局で検討を進めるので、宜しく願いたい。

それでは、次の議事に移りたいと思う。本日は報告事項が三点ある。そのうち、北九州市循環型社会形成推進基本計画は、資料をお配りするということでご報告に代えさせていただくとのことである。残り2件について、事務局から報告をいただき、質問を伺いたいと思う。

(2) 報告事項

平成20年度北九州市温室効果ガス排出量について、環境未来都市推進室長より説明

北九州市環境首都検定について、環境学習課長より説明

【委員】

本市は、CO₂を2030年までに30%、2050年までに50%削減するという目標を掲げているが、先ほどの基本計画の中にも一言も出てこない。この30%あるいは50%を削減するためのプロセスについて、どのように考えているのか。

【事務局】

グリーンフロンティアプランの中で、地域住民の連携を図るために北九州市環境モデル都市地域推進会議を発足させている。この会議には、地域住民をはじめ、北九州市衛生総連合会、北九州市女性団体連絡会議など様々な団体にも入っていただき、パートナーシップにより目標を共有しながら取組を進めることとしている。

【委員】

業務部門、運輸部門についても、成果を上げていくように検討が必要ではないか。

【委員】

環境首都検定について、申込用紙に氏名、生年月日、性別、住所、電話番号の欄があるが、これだけの個人情報に本当に必要なのか。

【事務局】

表彰にあたって、最高年齢の方などに特別賞を差し上げている。このため、生年月日等を記入いただいている。ご意見については、検討会で審議させていただく。

【委員】

環境首都検定を受けられた方へのフォローを何か実施しているのか。高い意識を持って検定を受検する方々は、市民の環境力の原動力になると思うが。

【事務局】

正にその点が課題である。高得点を取られた方々に、どのような活動で協力いただくかについて検討会で考えたい。

【会長】

折角なので、カウンセラーやマイスター等の称号を差し上げて、ボランティアとして協力いただく場をつくることはできると思う。

それでは、他にご意見がないようなので、本日の審議会はこれで終了させていただく。

【事務局】

本日はお忙しい中ご出席いただき、また、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。本日ご議論いただきました内容を踏まえて、事務局案の修正を行いたいと思います。その後続く戦略プロジェクトの見直しを事務局で進め、次回の環境審議会に報告し、ご議論をいただきたいと思いますと考えています。

以上を持ちまして、第 29 回の北九州市環境審議会を終了致します。本日はありがとうございました。